

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。

名古屋大学創立70周年(創基138周年)記念式典を挙行



記念式典の様子(平成21年10月17日、豊田講堂)

Contents

特集1 名古屋大学創立70周年(創基138周年)
記念式典を挙行 2
Ceremony Celebrates Nagoya University's 70th Anniversary
and 138th Year Since Original Foundation

特集2 第5回ホームカミングデイ報告 4
Report on the 5th Homecoming Day

同窓会ニュース 6
NUAL News

大学ニュース 16
Nagoya University News

事務局からのお知らせ 20
From the NUAL Office

名古屋大学は2009年に創立70周年(創基138周年)を迎えました。今号は、10月17日に開催された記念式典と、翌週24日に開催された第5回ホームカミングデイについての特集号としました。

In 2009, Nagoya University celebrated the 70th anniversary of its foundation (and the 138th year since the opening of the original medical college). In this issue, we describe the commemorative ceremony that took place in October and the events of the Fifth Homecoming Day held afterward.

名古屋大学創立70周年（創基138年）記念式典を挙行

Ceremony Celebrates Nagoya University's 70th Anniversary and 138th Year Since Original Foundation

名古屋大学創立70周年（創基138周年）記念式典が、平成21年10月17日（土）、豊田講堂において挙行された。式典には、卒業生、官民各界の関係者、退職者を含む教職員など約1,000名が出席した。

名古屋大学の起源は、138年前の明治4年に開設された仮病院・仮医学校まで遡る。（創基138年）その後、名古屋の地に総合大学をとの、地域の人々の長年の念願と活動が昭和14（1939）年に名古屋帝国大学として実現に至った。（創立70周年）

以来、戦後の復興期（昭和22年、名古屋帝国大学→名古屋大学（旧制）昭和24年、名古屋大学（新制）へ）、大学紛争期、そして国立大学法人化など大きな変化を経てきた。その間、9学部、13研究科、3附置研究所などからなる基幹的综合大学として、自由闊達な学風の下、最先端の高度な研究や教育の展開、地域を支える高度医療の実践、法整備支援に代表される国際協力の推進などを積極的に図ってきた。そして、多くの有為な人材を世に送り出してきた。（現在までの学部卒業生数は約92,000名）

式典ではまず濱口総長から、「さらに国際化を進め、『名古屋大学から Nagoya University へ』を大学改革の目標とし、日本の未来を切り拓く強い意志と理想を持った人材を育成し続ける」との式辞があった。引き続き、坂田東一文部科学省文部科学事務次官、神田真秋愛知県知事、河村たかし名古屋市長、豊田章一郎全学同窓会会長（トヨタ自動車株式会社名誉会長）から祝辞が述べられた。

次いで、混声合唱団と男声合唱団 OB による、学生歌「若き我等」、「巴里の若者の唄」などの合唱の後、「名古屋大学を語る」と題した記念フォーラムが行われた。



男声合唱団 OB の合唱



祝辞を述べられた来賓の方々



記念フォーラムが行われた豊田講堂

パネリストは、濱口道成総長、ノーベル物理学賞受賞の益川敏英特別教授、松本正之東海旅客鉄道株式会社代表取締役社長、宮池克人中部電力株式会社代表取締役副社長、石黒不二代ネットイヤーグループ株式会社代表取締役社長兼CEOの皆さん。そして、進行役は文学部卒業の丹野みどり中部日本放送株式会社アナウンサー。学生時代の思い出の写真やエピソードが披露されるたびに、会場からは笑いも起こる楽しい雰囲気、進められた。そして、将来の大学のあり方についても、それぞれの立場で意見を述べられた。

引き続き、創立70周年記念事業の一環として創設された名古屋大学基金に対し、20口以上の寄附をされた方々の名前を刻んだ銘板を豊田講堂ホワイエの壁面に設置し、その除幕式を行った。除幕式の模様は参加者には豊田講堂の舞台のスクリーンで映し出された。



パネリストの方々

その後、シンポジオンホールで祝賀会が開かれた。最初に杉山理事より挨拶があり、次いで齋藤英彦全学同窓会副会長（名古屋セントラル病院長）の祝辞があり、代表者による鏡開きが行われた。続いて、大西珠枝京都大学理事・副学長（元本学庶務課長）の発声により乾杯が行われ、大勢の参加者が歓談の花を咲かせた。

最後に、混声合唱団による「故郷」、「仰げば尊し」などの合唱が披露され、盛会のうちに終了した。（「名大トピックス」No.199、記念写真集「知と創造の拠点名古屋大学の歴史」参照）



名古屋大学基金への大口寄附者銘板除幕式



パネリストの方々



祝賀会での鏡開き

第5回ホームカミングデイ報告 Report on the 5th Homecoming Day



第5回ホームカミングデイ・ディレクター
(名古屋大学全学同窓会代表幹事)
伊藤 義人
昭和50年工学部卒、昭和52年修士修了
名古屋大学情報戦略室長



ホームカミングデイの大看板

第5回ホームカミングデイが、名古屋大学創立70周年（創基138周年）記念式典の1週間後の平成21年10月24日（土）に、「地域と大学で考える 創立70周年 人と人を結ぶメッセージ」をテーマとして行われました。私は、ディレクターとして第5回ホームカミングデイの責任者になりました。名古屋大学のホームカミングデイは、他大学とは多少異なり、卒業生・修了生の同窓生だけでなく地域住民や学生の保護者も対象にしています。年々、参加者は増えて今年は4,200名を越えました。

第5回ホームカミングデイにおいては、以下の名古屋大学創立70周年（創基138周年）記念行事を行いました。

- ①名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサート
【場所：豊田講堂】
第1部 13:00～14:45 対象：一般市民、保護者等
第2部 16:30～18:15 対象：同窓生、教職員
- ②記念展示【時間：10:00～18:00 場所：博物館】
「医学教育の曙からノーベル賞まで」
- ③記念特別講演会【時間：13:00～15:00 場所：博物館】
「名古屋大学の歴史を語る」

最も目玉行事となったのは、豊田講堂で行われた2回の名フィルのクラシックコンサートでした。一般市民は抽選で、数

倍の競争率になり満員でした。プログラムは、「フィガロの結婚序曲（モーツァルト）」、「バイオリン協奏曲（メンデルスゾーン）」および「交響曲第9番新世界より（ドヴォルザーク）」でした。通俗すぎるのではという意見もありましたが、2009年はメンデルスゾーンの生誕200年であるため、このようなプログラムになりました。指揮者は若手の川瀬賢太郎氏でしたが、名フィルの各パートの第1奏者がきており、豊田講堂の改善された音響効果ともあいまって大変好評でした。とりわけ、バイオリン協奏曲のソリストは高校1年生の郷古廉君でしたが、立派に弾ききり満場の拍手を得ていました。

その他の行事としては以下のようなものがありました。

- ①文学研究科 町田教授による「漫画の創造性と芸術性」
【時間：10:30～12:00 場所：シンポジオン】
(赤塚不二夫の編集者をゲストにして)
- ②文科系リレー学術講演会
「文の世界—書簡・通信・コミュニケーション」
(出演：4名の学内講師と辰巳琢郎氏)
【時間：13:00～16:15 場所：シンポジオン】
- ③医学系研究科
「生活習慣病予防～メタボリック症候群の予防とがんの予防について～」



濱口総長の名フィルコンサートでの挨拶



名フィルによるバイオリン協奏曲



文系リレー講演会（ゲスト：辰巳琢郎氏）



落合英二氏による野球教室

【時間：14:00～15:10 場所：IB 電子情報館 大講義室】

④環境医学研究所「脳の機能の不思議」

【時間：13:00～16:30

場所：野依記念学術交流館 2階】

⑤ライフピア地域支援研究センター活動報告会（医学部保健学科）

「少子高齢化と患者家族支援」

【時間：13:00～16:00

場所：IB 電子情報館 015講義室】

⑥親子ふれあいサッカー&野球教室

（総合保健体育科学センター）

【時間：サッカー 10:00～12:00、野球 14:30～16:00

場所：陸上競技場】

⑦柔道家 広瀬 誠氏による講演会・柔道教室

（協力：柔道部）

【講演会 時間：10:00～11:30

場所：野依記念学術交流館 2階

教室 時間：13:00～15:00 場所：第4体育館】

⑧本のリユース市（附属図書館）

【時間：10:00～17:00 場所：豊田講堂南側ピロティ】

⑨「名大キャンパス雑木林の生物多様性を観察しよう」

（生命農学、博物館）

附属図書館の本のリユース市や農学部による農産物販売は、非常に多くの参加者を集めていました。私も企画だけでなく実際に一部参加しましたが、山本総長顧問（生命農学研究科教授）が中心で行われた「名大キャンパス雑木林の生物多様性を観察しよう」という行事は、3回の予定を4回に増やして、親子連れも多く大変好評でした。その他にも、講演会や情報基盤センターのスパコンなどの施設公開も多くありました。

また、同窓会にとって最も大事なのですが、10の部局同窓会が主催して、部局同窓会総会や懇親会および講演会・展示会も行われました。

当日は、曇りで暑くも寒くもなく、無料昼食券も1400食提供でき、無事盛況の内に終了しました。平成22年度のホームカミングデイは、10月16日（土）に実施されますが、全学同窓会としては、全ての海外支部の支部長をお呼びして、総会などの行事企画をする予定です。ウズベキスタンと台湾に、3月と8月に支部をそれぞれ創設する予定ですので、10の海外支部が対象になると思います。より多くの卒業生・修了生が参加できるように、よい企画があればアイデアを同窓会事務局にお寄せください。



附属図書館の本のリユース市



名大キャンパスの雑木林の生物多様性の観察会

濱口総長上海支部を訪問

2009年12月17日（木）に、上海市の恒悦軒において、上海名古屋大学同窓会が開催され、上海交通大学等を表敬訪問中の濱口総長も同席しました。

年末のあわただしい中、24名の同窓生及び8名の本学関係者が出席し、賑やかな会となりました。

まず、幹事長の上海交通大学教授楊立氏から開会の挨拶があり、幹事の上海大学教授楊弋涛氏から、濱口総長の紹介がありました。続いて、濱口総長から挨拶があり、今後引き続き多くの優秀な留学生を中国から受け入れるために、今回訪問の各大学学長と意見交換を行ったことや、ご自身の留学経験談も交えながら留学の苦労、楽しさを語られ、同窓生に対し、名古屋での経験を活かして更なる活躍を期待している旨の言葉がありました。続いて、伊藤忠商事中国総代表桑山信雄氏から乾杯のご発声があり、懇談が始まりました。

和やかな懇談が続く中、幹事から名古屋大学基金について紹介があり、出席者に募金を呼びかけたところ、閉会までに多額の寄付が寄せられ、同窓生の本学に対する熱い思いが伝わってきました。

最後に、会場玄関において出席者全員の記念撮影を行い、盛会のうち閉会となりました。

翌12月18日（金）には、濱口総長の南京大学表敬にあわせて、南京大学西苑レストランにおいて、南京大学で研究する3名の同窓生との歓迎懇談会が開催されました。濱口総長から、本学の現状及び今後の留学生増加に向けた方策等について話があり、同窓生から協力の意が表されました。



上海支部の皆さん

濱口総長カンボジア支部を訪問

2010年1月9日（土）にプノンペン市内において、濱口総長とカンボジア支部との懇談会が開催されました。濱口総長が第2回「開発のためのアジア学術ネットワーク（The Academic Network for Development in Asia: ANDA）」国際セミナー及び王立プノンベン大学との学術交流協定再締結に出席することに伴い開催されたものです。

会には、濱口総長はじめ、山本総長顧問、二村国際開発研究科長や ANDA セミナーに出席した本学教職員・学生約30名のほか、カンボジア在住同窓生50名、セミナーにアジア各国から参加した同窓生など合計約100名が出席し、大変盛会となりました。まず、濱口総長からあいさつがあり、「グローバル30」事業など本学の国際化と留学生の受け入れ環境の一層の充実のための取り組みが紹介されました。続いて、同窓会を代表して、カンボジア同窓会長のホー・ペン王立法経大学教授による乾杯のあいさつの後、同窓生を代表して、3名の修了生から留学時代の思い出や、カンボジア帰国後のキャリアについて紹介がありました。同窓生には濱口総長より名大創立70周年記念品の栴が贈呈され、総長を囲んでの記念撮影がなごやかに行われました。恩師や旧友との再会など感動的で、楽しく大変盛り上がった夕べとなりました。本学におけるカンボジア留学生の受け入れは150名を数え、現在も約40名が在学しており、今後もカンボジア同窓生ネットワークが一層拡大し、より活発な交流が展開することが期待されます。



カンボジア支部の皆さん

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch



丹羽支部長の挨拶



濱口総長の挨拶



小林先生のお話



乾杯発声の榊原全学同窓会副会長



交流会場



展示会場

1月14日、学士会館において、名大全学同窓会関東支部新年交流会と名大創立70周年（創基138年）記念特別展示会「医学教育の曙からノーベル賞まで」が開催されました。名簿の未整備により、大学院卒業生や職員・留学生の方々などにご案内が届いておらず、深くお詫び申し上げます。展示会には、約310名の方がご覧になりました。特別展示は、源流となる初代校長後藤新平の執刀図や直筆の掛け軸、帝大誕生時代から・天王山・鶴舞・名古屋城・滝子・豊橋・桜山時代から、東山形成・豊田講堂建設に至る記念すべき写真や貴重な資料、ノーベル賞コーナーや産学連携・協力会コーナー・生協の名大グッズコーナー・学士会コーナーなど幅広い展示ににぎわいました。新年交流会は、丹羽宇一郎支部長の全学同窓会ネットワーク強化の挨拶にはじまり、濱口道成総長から「濱口プラン」に基づきこれからの名大の姿を、真のユニバーシティを目指す力強い挨拶がありました。ノーベル賞の小林

誠特別教授からは、学生時代の様子から、ノーベル賞受賞に至る世界最先端の研究をされた熱気あるお話をいただきました。榊原定征全学同窓会副会長の挨拶と声高らかな乾杯の音頭にて、昭和17年から平成21年までほぼ70年に亘る卒業生、約270名の会員が交流しました。途中、伊藤義人代表幹事より、名古屋と海外での活動状況のPPTによる報告がありました。依田直也関東支部幹事の中締め後も多くの方が遅くまで残られ、藤田訓弘関東支部幹事の音頭で八高寮歌と学生歌も歌われ、今後の名大を力強く支援してゆく意気に燃えた新年交流会となりました。

■関東支部事務局長：片岡大造

千代田区神田錦町学士会館内

名古屋大学東京連絡所

E-mail : tokyo.office@tokyo-office.sat.nagoya-u.ac.jp

関西支部 NUAL Kansai Branch



講演会場の様子

関西支部では、平成21年12月5日（金）15時から、大阪厚生年金会館において、第5回総会を開催しました。今回は、関西地区在住の医学部同窓生に声をかけたこともあり、濱口総長に縁の同窓生をはじめ、約90人の参加がありました。総会では、笈哲男関西支部長の開会挨拶に続き、伊藤義人全学同窓会代表幹事から、モンゴル支部設立等の海外支部設立状況や同窓会カード事業などの活動報告がありました。続いて、濱口総長から、「21世紀の日本と名古屋大学」と題してお話いただきました。濱口総長は、お話しの中で、「名古屋大学を Nagoya University へ」と推し進める「濱口プラン」を述べられ、参加者は、母校発展への思いをますます強くしました。

引き続き、井口昭久愛知淑徳大学教授（前名古屋大学医学部附属病院長）から「老化を考える」という演題で講演いただきました。井口先生ご自身が描かれた絵を交えてのお話を伺い、参加者それぞれが我が身をふりかえり、「賢く老いる」ことについて考えさせられるよい機会となりました。

懇親会では、関西支部各幹事から活動状況や近況の報告があった後、若い参加者が紹介され、世代を超え、学部・学科を越えた和やかな会となりました。

■連絡先 関西支部長 笈 哲男

E-mail : secretary@sanyo-chemical.com

医学系研究科 学友会 Medicine



学友大会総会の様子

第100回名古屋大学医学部学友大会が平成21年9月26日（土）に名古屋観光ホテルにおいて開催されました。当日は、司会の田中章景先生による進行のもと、学友大会総会が開催され、終了後には、高橋昭名誉教授による記念講演及び益川敏英特別教授（京都産業大学教授）による特別講演が行われました。同ホテル内には、本大会を記念して、医学に多大な貢献をされた医学部出身の先生について、また、現在の医学部の取り組みについて紹介する展示コーナーが設けられました。鶴舞キャンパスでは、午前10時30分から、「名古屋大学医学部施設見学ツアー」が行われました。

■連絡先 医学部学友会

TEL : 052-744-2512

FAX : 052-741-7676

E-mail : gakuyuukai@orchid.plala.or.jp

国際言語文化研究科同窓会 Languages and Cultures

国際言語文化研究科同窓会では、第5回名古屋大学ホームカミングデイに際し、懇親会・総会のほか、次のような企画を実施し、50名ほどの来場がありました。活発で有益な議論もある楽しい会合だったと思います。また、今後の新企画についてのアンケートも行いましたので、来年度もどうぞご期待ください。

1) 平成20年度提出博士論文発表会

有藪智美

(日本語文化専攻修了)

「身体部位詞を構成要素に持つ日本語慣用表現の認知言語学的研究」

重松由美

(国際多元文化専攻修了・名古屋大学非常勤講師)

「在日ブラジル人若年層による日本語借用語使用—ブラジル人学校児童生徒の場合—」

2) 懇話会「国際言語文化研究科での研究とその後」

パネリスト:

福田真人

(国際言語文化研究科日本語文化専攻教授)

布施哲

(国際言語文化研究科国際多元文化専攻准教授)

池側隆之

(国際言語文化研究科国際多元文化専攻准教授)

杉本一正

(愛知県春日井保健所主査・NPO 法人子どもの国理事・臨床心理士)

藤田淳志

(愛知学院大学専任講師)

シャリフ・メベド

(東海学園大学専任講師)

山田昌臣

(中日新聞社技術局)

(同窓会事務局長: 田所光男 tadokoro@cc.nagoya-u.ac.jp)

法学部同窓会 (関西名法会) Law (Meiho-kai)



参加者全員での記念撮影

関西名法会 (名古屋大学法学部同窓会の関西支部) の総会が、平成21年11月21日、新幹線新大阪駅前のチサンホテルにおいて開催されました。この総会に名古屋大学から法学部長の杉浦一孝教授が、名古屋大学法学部同窓会から私が、それぞれ招かれて参加しました。関西名法会は、黒田幸雄会長 (昭和28年卒) はじめ、大阪、京都、神戸など関西地区在住の名古屋大学法学部卒業生により、平成20年11月20日創立されました。会員中、最も高齢の方は昭和26年卒の金子猛さんで、最も若い方は平成13年卒の東村紀子さんと、川本真聖さんです。毎年1回は定例の総会を開かれるそうです。

今回は、連休の最中で、参加者が18名と、やや少なかったのですが、本来はもう少し大勢集まられるはず、とのことでした。

総会の中で杉浦教授が、昨年秋の名古屋大学法学部60周年を記念して作成された「60年の歩み」のDVDを上映しながら、名古屋大学法学部の回顧と現状報告をされました。名古屋城の中にあった旧兵舎を利用した教室で、薪ストーブを囲んだオーバーを着込んだ学生達の姿や、今は亡き松坂先生らの面影に、年配の方は懐かしそうに見入っておられました。

また、立派に整備された学内建物や施設、緑地付きの中央道路の様子、国際交流センターなどに入出入りする外国人留学生の多さや、人数も多く出で立ちも華やかな女学生の姿に、「全く変わっちゃったねえ」と驚きの声をあげられていました。総会は、立食パーティのなごやかな雰囲気のなかで約2時間続きましたが、なごり惜しさの余り、つい2次会に足が向かってしまいました。「またの機会を是非」と固くお約束して散会しました。

名古屋大学法学部同窓会 副理事長
田中 清隆 (昭和43年卒)

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第10回は、アフガニスタン学術調査はじめ海外の学術調査、民族音楽の研究、また、地元の文化・芸術振興の中心的存在で、国内外でご活躍の、藤井知昭さんと、東海ラジオ放送の若手人気アナウンサーとしてご活躍で、第5回ホームカミングデイのフォーラムの司会もされた山崎聡子さんに登場していただきました。

This column “NUAL People in Action” features our alumni playing active roles in various fields. This issue features Tomoaki Fujii, a scholar renowned in Japan and abroad for his research on international folk music, particularly in Afghanistan, and a key player in the promotion of regional arts and culture; and popular young radio personality Satoko Yamazaki of Tokai Radio, who emceed the 5th Homecoming Day Forum.

藤井 知昭さん



昭和30年名古屋大学文学部哲学科美術専攻を卒業、同研究科を経て、昭和49年名城大学助教授を退職、同年国立民族学博物館助教授に就任。以来、昭和56年教授となり研究部長を経て、平成5年より副館長に就任。平成8年3月退官し、同館名誉教授。また、平成元年に国立の総合研究大学院大学文化科学研究科が設置されると教授・比較文化学専攻長、文化科学研究科長を併任し、平成8年3月退官し、名誉教授。平成8年4月中部大学に、平成8年4月に創設された中部高等学術研究所、教授（副所長）に就任し、現在客員教授。国際文化研究所所長。

（一）学生時代—合唱に明け暮れる—

私が入学した1951年度は、理・工学部を除く全学部の新一年生の授業は、岡崎高等師範の学舎に併置された豊川の分校ですべて実施された。通学に不便な地であったために大半の学生は、教員寮、女子寮と男子のための五つの寮での一年間の寮生活だった。振風寮の名のように、冬季は寒風にさらされ、すき間風の多い各室の唯一の暖は火鉢だけだった。毎日深夜まで自由な議論が渦巻き、交友が深まる別天地だったが、畑に囲まれた寮の文化的環境は皆無。音楽好きを集めて細々と合唱を始めたのが、唯一の文化的な営みであった。翌年、二年次は本来の瑞穂の教養部に移り、この年度の新入生は豊川に行くことなく同じ学舎だったので活気に溢れる学生生活が実感できた。豊川以来の仲間と合唱団を作るべくハリ紙などの団員募集では女子学生の参加も多く、教養部混声合唱団（現在の名大混声合唱団）と名づけて発足していった。

だが、当時は女子学生も少数で、その多くが合唱団に加入してくれたが、練習時には窓の外側には男子学生が群がってのぞきこみ「うまくやっている」などのヤジに包まれたことなど、現在では想像もできない思い出である。

しばらくして、工学部、経済学部、医学部などの学部でも合唱を始めており、全学統一の男声の合唱団に纏める機運が高まったらしく、教養部にも誘いがかかり、教養部混声合唱団男声のほぼ全員が全学の方へ参加することになり、名大男声合唱団が誕生し、以来60年近くになる。教養部で指揮をしていたこともあり、先輩達に混ざって委員にされ、渉外役を割当てられた。6月、名古屋市公会堂で京大、横浜国大との三大

学交歓合唱演奏会の責任者となったことが契機となり合唱活動にのめりこんでいった。翌年、三大学に東大を加えた大学合唱協会を結成、続けて名古屋の各大学に呼びかけ、名古屋地区大学合唱連盟の組織化などに走り回り、同時に卒業年次の四年生まで指揮を担当する合唱に明け暮れた学生生活だった。

一方、学部に進み文学部哲学科美学を専攻と定め、一応研究室にも通う中で、指導教官から、研究テーマ並びに卒論の課題の設定を命ぜられ、学問・研究にも身を入れていった。

音楽美学の研究に次第に入りこみ、将来、研究者の途を志向するようになったのは、当時第一線のすぐれた講師陣が多く、受講する学生は私を含めて3、4年全体で3名。従って個別にしがたれ、学ぶという中で研究への関心がふくらみ、学部卒業以来、長年、研究室に残ることになっていった。



（二）卒業後の歩み

研究室にしばらくかかわっているうち、一つの転換期ともいえるべき出来事が起こった。東大がアンデス、京大がカラコルム・

ヒンドゥークシュの海外学術調査が大きく報道され、注目を集めていたことなどに触発され、名大も海外学術調査を実施しようという機運が起った。その一つに美学研究室を中心とするアフガニスタンのバーミヤン遺跡の調査をはじめ仏教芸術の源流というテーマが浮上してきた。この動きが次第に進展し、名大アフガニスタン学術調査会が全学的に組織され、仏教芸術研究班と高所医学研究班という二班からなる現地調査団が派遣されることになり、メンバーの一員に選ばれ、1964年に現地調査に出発した。

バーミヤンの洞窟寺院の壁画（下の写真は破壊前のもの）の調査を主に、現地の音楽調査などが私の役割であり、日中は寺院跡の中に入り、夕刻からバザールに村人を集め民謡などのテープレコーダーでの録音や聞き取りの調査に入っていた。一ヶ月ほどのバーミヤン遺跡の調査後、唐代の精緻な記録を残した玄奘三蔵の『大唐西域記』の足跡を検証すべく、バーミヤンから北方の古代バクトリアの都とされるバルクまでのシルクロードの一端である古代ルートの踏査にあたった。20頭のロバ隊にテントなどの荷物を運ばせ、我々は馬を借り上げての騎馬による3千メートルを越える峠など苦難のキャラバンの連日だった。

溜め池一つ、五・六戸のみの小集落にテントを張り、村人たちとの交流の時、手製の二弦楽器だけで朗々と歌う歌声とその見事な叙事詩が、ヒンドゥークシュの山並にこだまして響く感銘は忘れ難い。電気など現代文明と全く隔絶された人々の生きる証しとも言うべき歌との出会いだっただ。

それまでバッハ研究などクラシック音楽の美学的研究を主としてきたが、バッハやモーツァルトなどの感銘との違いは何かという問題とともに、人々に伝承される民族音楽への視野と関心が大きく自分の中で渦巻いてきた。

この経験を契機に、人間と音楽との関わり、人間の享受する音文化研究という方向での視座に移って行った。

それ以来、アジアを軸に諸民族の音文化の研究のための海外調査が大きな位置を占め、これらの研究によって、名城大、京大人文科学研究所を経て、大阪万博地での大学共同利用の研究機関である国立民族学博物館の創設とともに梅棹忠夫氏から招かれて赴任していった。

諸民族の社会と文化の研究を軸とする民博は、大学院後期博士課程の指導の役割もあったが、海外調査も大きな課題でもあった。

文部省の科学研究費を得て17次、28年間に及ぶアジア地域の海外学術調査ははじめ150ヶ国をこえる調査、さらには国際会議などの研究生活を送ってきた。



海外の大学の客員教授や調査など、一年の多くを海外で過ごす中で、日本のとりわけ地元の文化のあり方への関心が深まり、名古屋市や愛知県の文化施策や事業にかかわることも多くなっていった。それと同時に行政主導ではなく民間側の必要性和実感し、市民文化懇談会さらにはこの地域の専門家集団による愛知芸術文化協会（現理事長）を発足させ二十年近くになる。また、合唱とも離れがたく、合唱団（グリーン・エコー）の創設や三十年ほど理事長を務めた愛知県合唱連盟や現在も「市民の第九」を実行する愛知合唱協会の仕事など、合唱とは縁の切れない今日でもある。多くの国際的な用務とともにこの地域の文化振興へのかかわりは、まだしばらく続きそうでもある。

（三）若い学生諸君への期待

国際関係はじめ政治や経済などが激しく変化し続ける現代において、次代を担う学生諸君には多くの期待がよせられている。

諸状況や価値観などの変容する中で、若い学生諸君には、せまい固定的な視点にとらわれることなく、広く弾力的かつ自在な発想の視点での思考や行動を期待している。今年、名古屋などCOP10が開催され、生物の多様性をめぐる諸問題が論じられる。生態系における自然など環境の多様性は、同時に文化の多様性を考える視点と連動している。文化は芸術的営みなどに限られて考えられるが、文化は広くは生活様式や行動様式などの人々の営みとともに価値の体系などを意味する語でもある。その多様な文化的営みのさまざまなあり方を受け入れる視野などを背景として、その軸になる自己の形成や専門性の高い学問や研究の構築をすすめて欲しいと期待している。

（四）全学同窓会によせて

全学の同窓会が発足し、多様な活動が進展していることは誠に嬉しいことである。学部単位の同窓会活動は以前からあったが、歴史を重ねて卒業年次の中も広がるなど、やや個別的には希薄な存在になりがちだった。まして他学部の卒業生はクラブ活動などの接点がない限り、近親感や同窓意識などは皆無に近いのが私の感覚だった。

国内外で催される会議や会合などさまざま機会があっても、同窓などを認知し合うことは皆無に近い。宴席など打ち解けた会話などの折に、偶然に認知し合うこともなくはないが稀なケースである。かつて外務省における夫々異なった領域で構成されるメンバーによる委員会が3年ほど継続され、その終わりの懇親会で主催の担当者から、この委員会の半数は名大卒ですねと語られ、相互に3年も知らなかったことに驚いた。国や地方自治体の委員でも、現職は記載されているが、経歴が記されることはなく、このような事例は数多い。全学同窓会では、財界でのすぐれた方々が中軸だが、法曹界、新聞はじめ情報界、文化芸術や体育・運動関係などもすぐれた人材は数多い。同窓会がさらに大きな広がりとなり、多くの卒業生が集う機会になることを願っている。

山崎 聡子さん



1976年、愛知県春日井市生まれ。1999年、名古屋大学情報文化学部卒業後、東海ラジオ放送（株）に入社。アナウンサーとして「一宏・聡子の音楽時代」「ヒット・サンデー」「天野良春のラジオクルージング」などの番組を担当。現在は「やまドル!」「民話のこぼこ」「名古屋大学リレーセミナー」などを担当している。また2007年10月に第1子を出産。現在は復職し、子育てをしながらアナウンサーとして活動中。

私が名古屋大学に入学したのは、情報文化学部ができてまだ2年目の1995年。ちょうどウィンドウズ95が発売される直前で、パソコンやインターネットをめぐる環境が大きく変わろうとしている前夜の頃でした。まさに時代が移り変わろうとしている最中での新しい学部の創設に、先生方もどんなカリキュラムを組みばいいのかさぞ悩まれたことと思います。実際、入学してまもなく行われた授業中、ある先生が「正直に言って何を教えたらいいのかわからない。ぜひみなさんと一緒にこの新しい学部を作りあげていきましょう。」とおっしゃったのが強く印象に残っています。おそらく先生の正直な気持ちであったのでしょう。

学生自身も「どんなことを勉強するかよくわからないけど、なにか新しいことをやってくれそうだ」という期待で入学した者が多かったのではないのでしょうか。実際、好奇心が旺盛で、どんどんいろいろなことを経験して自分のアンテナを広げようという意識の強い学生が多かった印象があります。さらに、私が所属していたのは「情報創造論」という、情報文化学部の中でもひと際何を研究しているのかわかりにくいゼミ。先輩や同級生の卒論テーマを見てみても「あたたかい家庭を築くための家の設計について」「パリコレにおける情報発信の意味」「テレビドラマから見る電話器の変遷」などなど、まさになんでもありでした。他にはない個性と魅力を持った楽しい学部だったと今では思います。

にも関わらず、私個人はと言えば、先ほどの先生の言葉に甘えて社会勉強に励む日々。大学の授業をほぼり出し、海外に1ヶ月間バックパックを背負ってでかけてしまったり、テスト期間中にアナウンサーの勉強のために東京に行ってしまったりと、問題児として先生にご迷惑をかけっぱなしでした。

あまりに申し訳なくて、もう2度と大学に顔を出すことなんてないだろう…と思っていたところが、運命とは不思議なもので

す。運よく東海ラジオに拾ってもらってアナウンサーとなり、入社2年目から担当することになった番組が「名古屋大学リレーセミナー」。毎年夏に様々な学部（大学院）から先生に1人ずつお越しいただき、ラジオ公開講座として30分間お話を伺うという番組です。おかげさまでこの番組を担当してもう丸10年になりますが、すべての学部の先生にお越しいただくため、お話いただく内容も幅広く、番組の収録前には予習が欠かせません。学生時代の分まで勉強しろということなのでしょう。

さらに、情報文化学部の集中講義「情報と職業」では、3年前から講師として2.5コマ担当させていただいています。他の講師の皆さんは社会的に地位を築いていらっしゃる方々ばかりの中、私は卒業生として呼ばれているため、アナウンサーの仕事についてや就職についてなど気軽な内容の講義となっはいるものの、それでも生徒達から「先生」と呼ばれているのには、自分でも驚いてしまいます。

また、去年の10月には、名古屋大学創立70周年を記念して行われた第5回ホームカミングデイで、学術講演会「日本漫画の創造性と芸術性」の司会という大役も仰せつかりました。漫画家の赤塚不二夫先生を長い間担当されていた元「週刊少年サンデー」編集者の武居俊樹さんと、文学研究科の町田健教授をお迎えしてのトークセッション。2人とも本当にお元気で、私は猛獣使いのような気持ちで進行役を務めさせていただきましたが、漫画という庶民的で身近な題材を切り口に、非常に深く有意義なお話を聞くことができました。なかでも、赤塚先生の人生や作品を通して“本物のバカ”になる大切さを知ることができました。

今では、こんな落ちこぼれ学生をあたたかく受け入れてくれた名古屋大学、そして情報文化学部で学べたことを心から感謝しています。東海ラジオに入社してからも、やはり落

ちこぼれアナウンサーとして周りにたくさんの迷惑をかけましたが、自分はどうあるべきか、何をすべきかを模索しているうちに、早11年が経ちました。おかげさまでずっとアナウンサーとして仕事を続けることができ、さらに会社の50年の歴史の中で初めて“ママアナウンサー”になることもできました。また出産を経て仕事に復帰したことをきっかけにワークライフバランスに興味を持ち、先日「ワークライフバランスコンサルタント」の資格も取得いたしました。少しずつ、仕事の幅としゃべりの幅が広がっているように感じます。これも、よくわからないまま新しい学部に入り、日々模索しながら学生生活を送っていた



町田教授と武居氏とのトークセッションの様子

学生時代の経験が生きているのでしょうか？

子供も2歳になり、まだ詳しくは言えませんが、この春からはついに本格的に番組復帰することが決まりました。いよいよ再始動です。

これからも情報文化学部の草創期を知る者として、進むべき道を模索しながら学んでいた学生時代の心意気を忘れずに進んでいこうと思います。ただの落ちこぼれではなく、時代を切り拓く“本物のバカ”になれるように…。



第5回ホームカミングデイにて



運動会にて息子と

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会では、全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生支援、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等）への支援を目的として、平成16（2004）年度より、公募型の大学支援事業を開始しました。この事業は年2回募集を行い、選考にあたっては選考委員会を組織し、厳正に行っております。平成20年度後期の採択事業1件と平成21年度前期の採択事業2件について、担当者より報告いただきました。

NUAL commenced an open invitation type support project from 2004 for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association. This project extends invitation twice a year and the Selection Committee is organized to implement a strict selection of activities. The following are summaries of the activity selected in 2009.

環境学研究科同窓会発足

申請代表者：岩松将一
(名古屋大学大学院環境学研究科同窓会 教職員会員代表)

2001年に創設された環境学研究科もまもなく10年、修了生も1,000名を超えようとしています。そこで研究科では、去る10月24日に開催された第5回名古屋大学ホームカミングデーにあわせて研究科同窓会を発足、当日は記念式典を開催しました。

式典では、豊田章一郎全学同窓会会長からの祝電を披露した後、設立までの経緯を説明、会則案を承認して同窓会を正式に発足しました。修了生の多くが関係部局同窓会に加入して会費等を納入していること、加えて、総じて若い修了生の年齢層などから、本同窓会は会費を設けずに活動します。大きな活動は出来なくとも、連絡網の構築や研究科の情報発信など、修了生の成長、今後の世代構成変化を見据えた地道な活動を持続できればと思います。

会の発足、修了生役員紹介の後には、修了生3名（生田領

野さん、岡本肇さん、花田文子さん）を登壇者とした記念座談会「環境学で学んだこと」を開催しました。修了生、教職員、さらには現役大学院生も交え、会は終始和やかな雰囲気で行いましたが、これからの環境学教育に対する意見や、家庭と仕事の両立など、社会で活躍する修了生のたくまさが随所に垣間見える、実りの多い座談会となりました。終了後は、軽食をとりながらの交流会で親睦を深め、式典を閉会しました。

末筆となりましたが、本同窓会の設立と式典の開催にあたりましては、全学同窓会ならびに関係部局同窓会の皆様より多大なるご支援とご協力を賜りました。会員を代表して心より御礼を申し上げます。

■連絡先：

岩松将一

(名古屋大学大学院環境学研究科同窓会 教職員会員代表)

envdoso@env.nagoya-u.ac.jp

URL: <http://www.env.nagoya-u.ac.jp/alumni/alumni.html>



式典終了後、交流会の一幕

名古屋大学法学部創立60周年記念 国際シンポジウムの開催

申請代表者：杉浦一孝
(法学研究科長)

名古屋大学法学部は、11月6日（金）に、東京国際フォーラムにおいて、国際シンポジウム「体制移行国・発展途上国への法学教育協力～名古屋大学日本法教育研究センターの新たな挑戦～」を開催しました。同学部は、1990年代より市場経済化や民主化を目指す体制移行国に対する法整備支援に積極的に取り組んできており、その一環として、これらの国々から留学生の受け入れを実施してきました。今回のシンポジウムは、人材育成の中でも特に平成17年から設置されている「日本法教育研究センター」プロジェクトを中心として、これまでの留学生教育の取り組みを総括することを目的に、同学部創立60周年記念行事の一環として開催したもので、内閣官房、文部科学省、各国大使館、法曹関係者及び企業関係者を含む、約150名の出席がありました。

シンポジウムでは、大学が行う人材開発のあり方や、国際教育研究拠点はどうのように形成されるべきか、を論点に、本学教員、日本法教育研究センターが設置されている大学の学長及び学部長、センター修了生等から様々な角度からの報告がありました。また、各国センターとテレビ会議を接続し、ウズベキスタン・モンゴル・ベトナム・カンボジアの学生が日ごろの学習の成果を披露しました。

さらに、法学と日本語教育学の融合という独創的かつ先進的な取り組みについて、日本語教育学の観点からの報告と、本学のグローバル化戦略における大学院法学研究科の活動ということで、「国際学術協力の拠点としての日本法教育研究センター」と題した報告があり、盛況のうちに国際シンポジウムは閉会しました。



ウズベキスタン留学生による成果発表

クリスマスコンサートの開催

申請代表者：中村奈央
(フォークソング同好会情宣・教育学部3年)

私たちフォークソング同好会では毎年12月にクリスマスコンサートというライブイベントを行っております。本番の1カ月前にサークル内で予選会を行い、上位8組がそのコンサートに出演することができ、サークルの1年間の総括の場として毎年続けておりました。また毎年OB・OGをはじめ、地域の方々や他大学の音楽系サークルの方々など数多くの方にご来場して頂いているためこのイベントは、自分たちの成果を見せるだけでなくそれを通じて多くの方々との交流を目的とした場として貴重なものとなっています。そのため活動にかかる費用は全てサークル構成員負担とし、ご来場頂く方には一銭の負担もないようサークルをあげて努めておりました。この度全学同窓会様のご支援によりこのイベント運営費への援助金を頂いたことで、今年は例年に増して広告、宣伝をすることができ、また毎年無料配布している、サークルに所属するバンドや個人が自主的に制作した楽曲を集めたコンピレーションアルバムの制作も例年以上に力をかけることができて素晴らしいものに仕上がりました。毎年楽しみに来てくださる地域の方々、OG・OBの皆様、他大学の学生の方々などのためにも、今後もこのような交流の場を提供し続けていきたいと思っております。今後とも名古屋大学フォークソング同好会へのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



クリスマスコンサート2009の様子

■平成21年春の叙勲受章者決まる —本学関係者5名が喜びの受章—

平成21年春の叙勲の受章者が発表され、本学関係者では次の方々を受章されました。

[教育研究功労 関係]

瑞宝中綬章

平出 慶道 名誉教授（法学部）
元法学部長
元中央大学教授

瑞宝中綬章

藤本 哲夫 名誉教授（工学部）
元工学部長
三重大学名誉教授
元三重大学工学部長
元名城大学教授

瑞宝中綬章

川本 眺万 名誉教授（工学部）
元愛知工業大学教授

瑞宝中綬章

杉本 悦郎 名誉教授（農学部）
元京都大学教授
滋賀県立大学名誉教授
元滋賀県立大学人間文化学部長

[通産行政事務功労 関係]

瑞宝中綬章

小川 克郎 名誉教授（環境学研究科）
元環境学研究科長
元通商産業省工業技術院地質調査所長
名古屋産業大学教授
名古屋産業大学大学院環境マネジメント研究科長
(名大トピックス No. 193より)

■平成21年秋の叙勲・褒章受章者決まる —本学関係者2名が喜びの受章—

平成21年秋の叙勲及び褒章の受章者が発表され、本学関係者では次の方々を受章されました。

【叙勲】

[教育研究功労 関係]

瑞宝中綬章

稲毛 満春 名誉教授（養）
元日通学園流通経済大学教授
元名古屋学院大学教授

【褒章】

紫綬褒章

上村 大輔 名誉教授（理）
慶應義塾大学理工学部教授

(名大トピックス No. 199より)

■赤崎 勇本学特別教授が第25回京都賞を受賞

赤崎 勇本学特別教授が、6月19日（金）、第25回京都賞を受賞されました。

同賞は、財団法人稲盛財団により、科学や文明の発展、また人類の精神的深化・高揚に著しく貢献した方々に贈られる国際賞で、先端技術部門、基礎科学部門、思想・芸術部門の各部門があります。



赤崎特別教授

赤崎特別教授の受賞理由は、「窒化ガリウム pn 接合の先駆的実現による青色発光素子発展への貢献」であり、先端技術部門での受賞となりました。同特別教授は、20世紀中の実現は不可能といわれていた高性能青色発光デバイスを、20年にもおよぶ粘り強い継続的な研究活動により、本学工学部教授として在職中の1989年に世界で初めてその実現に成功しました。(名大トピックス No. 194より)

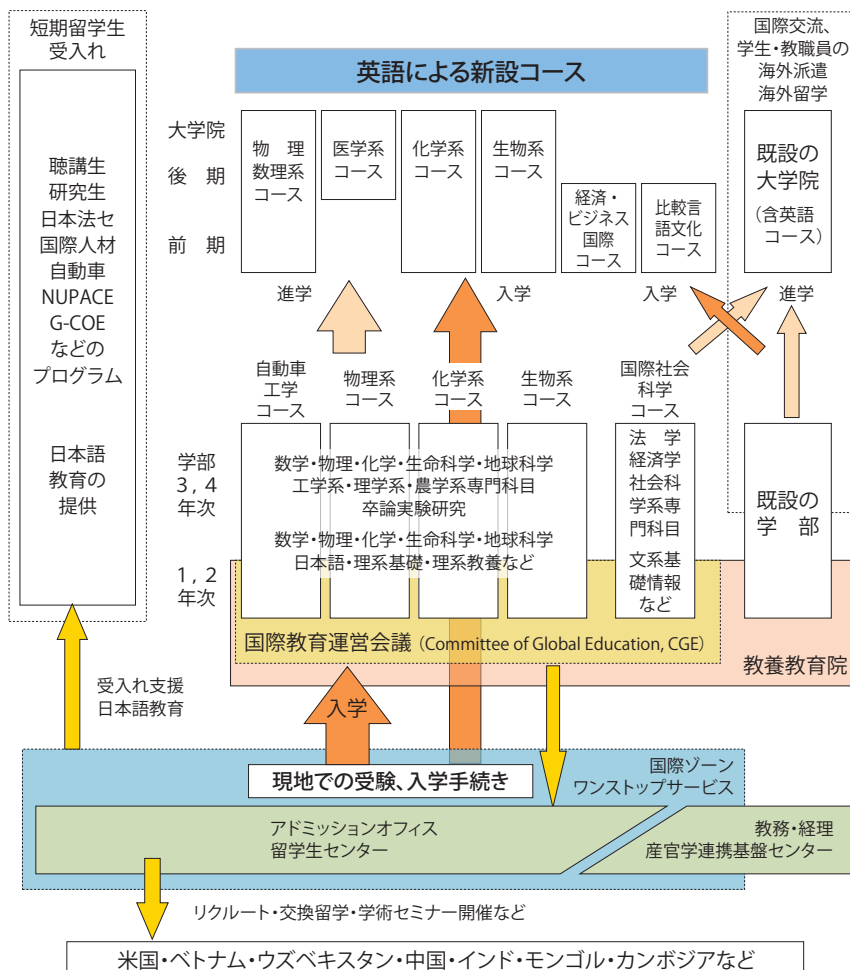
■平成21年度国際化拠点整備事業(グローバル30)の拠点に採択される

平成21年度国際化拠点整備事業(グローバル30)の選考結果が公表され、本学は、本事業の拠点として採択されました。

本事業は、文部科学省が今年度から実施する事業で、「我が国の高等教育における国際競争力の強化」及び「留学生等にとって魅力的な水準の教育等を提供するとともに留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な人材の養成」を図ることを目的として、我が国の留学生受け入れの拠点となる質の高い国公私立大学をコンペ方式で

名古屋大学 国際化拠点整備事業構想(概要)

- 世界に誇る研究推進、世界をリードする研究者群
- 英語コースの新設、既設授業の英語化、教員の国際公募
- 奨学金制度の整備、TA/RA制度の充実
- 宿舍の整備 キャンパスの国際化 海外拠点の整備
- 学内文書・掲示物の英語化、図書館の国際化



選定し、各大学の機能に応じた質の高い教育と、海外の学生が日本に留学しやすい環境を提供する国際化拠点の形成に向けた取り組みを総合的に支援するものです。

本事業に採択された各大学では、(1) 英語による事業等の実施体制の構築として、国際的競争力のある学部・研究科において、英語で授業を受け、英語で学位が取得できる体制を整備すること、(2) 留学生受け入れに関する体制の整備として、留学に対する専門スタッフによる生活支援、日本語教育、就職支援や補完教育の実施及び4月以外の入学時期の促進、(3) 戦略的な国際連携の推進として、留学生を受け入れるためのワンストップサービスを行う海外拠点の設置等を推し進めること、が期待されています。

本学では、(1) について、学部文系では、国際社会科学コースを、理系では、自動車工学、物理系、化学系、生物系の4コースを設置します。さらに博士課程前・後期課程においても、文系・理系に同様な英語環境の教育が受けられる6つの国際コースを設置します。(2) について、留学生のあらゆる手続き、相談に対応するワンストップオフィスとして、現在の受付業務を英語で行うアドミッションオフィス及び留学生の卒業後の進路指導を積極的に実施するためのキャリア・ディベロップメント・オフィスを整備します。また、英語対応可能な各種アドバイザーを新規に採用し、英語教材等の英語化を実施します。(3) については、上海事務所等既設の海外拠点及び新たに整備する名古屋大学ウズベキスタン事務所、さらに他の拠点大学が設置する共同利用事務所の活用により、海外でのワンストップサービス等の実施を計画しています。

特に、本学のウズベキスタン事務所など採択校が設置する8カ所の「海外大学共同利用事務所」は、日本の大学全体の魅力を情報発信するとともに、学生募集を行う日本国内の大学のための説明会の開催、入学審査時の面接などの支援業務が期待されています。

今後、平成23年度の学生受け入れに向けて、急ピッチで準備を進めることになります。

なお、事業全体では30校程度選定される予定ですが、本年度はそのうちの13校が採択されました。申請は、全体で22件（国立大学15校、私立大学7校）あり、採択された13校の内訳は、本学を含めて国立大学は7校、私立大学は6校でした。（名大トピックス No. 195より）

■名古屋大学学内学童保育所「ポピンズアフタースクール」開所式を挙

名古屋大学学内学童保育所「ポピンズアフタースクール」開所式が、9月1日（火）、同所において挙

行されました。開所式では、濱口総長によるあいさつ及び藤井理事による概要説明があった後、森 栄子株式会社ポピンズコーポレーション取締役副社長、保護者代表、総長、藤井理事、男女共同参画関係教員らによるテープカットが執り行われました。また、開所式に先立ち、関係教職員による施設見学が行われました。

大学の教職員及び学生の子どもたちを対象とした常時保育を行う大学内学童保育所の設置は、全国初の試みであり、すでに7月21日の夏休み開始と同時に開所されていま



挨拶する濱口総長



星見会に参加した子どもたち

たが、開所式は、外構工事の関係で9月の挙行となりました。本学では、すでに平成18年4月に、こすもす保育園を開園していますが、入園希望者の増加に対応するために保育園の増築を行い、その増築部分の2階（121m²）に学童保育所を設置しました。

離職の第2のピークと言われる「小1の壁」の解決のために、地域の学童保育やトワイライトスクールに次ぐ第3の選択肢として、全学年対応、21時までの延長保育、スポット利用可能、食事提供、近隣小学校への車での迎えなど、これまでにない柔軟で安心な預かり体制を特徴としています。

また、大学が保有する人的、知的、物的財産を最大限活用して子どもたちの知的好奇心を刺激する様々なプログラム開発を行うことが可能であり、実際に、この夏休みに行われたプログラムでは、太陽地球環境研究所教員による星見会、留学生講師による英語、韓国語、中国語のレッスン、総合保健体育科学センター教員の指導によるテニス教室等が行われました。さらに、9月にも「ふれあいサイエンス～わくわく実験タイム～」と題した様々な実験を体験するプログラム、地元のケーキ屋のパティシエにお願いして実際にケーキを作るプログラムを行いました。

今後も、運営を委託する株式会社ポピンズコーポレーションとの産学連携により新しい学童保育のモデル構築を目指していきます。（名大トピックス No. 197より）



ケーキ作りをする子どもたち



テープカットの様子

「名古屋大学カード」から始まる大学支援

年会費永年無料！

加入者は、5,000人を超えました。



全学同窓会では、大学支援を強化するため、「名古屋大学カード」事業を行っています。「名古屋大学カード」は、UFJゴールドカードと同等の機能*を持ち、年会費は永年無料です。「名古屋大学カード」をご利用いただきますと手数料の一部が全学同窓会に還元されます。

全学同窓会では、その還元金を大学支援事業（学生活動支援、就職活動支援、行事支援）に充当し、研究・教育活動を支援しています。是非、ご加入ください。

* UFJゴールドカードとは一部異なる特典がございます。詳細は申込書をご確認ください。

全学同窓会ホームページ (<http://www.nual.nagoya-u.ac.jp>) から申し込むことができます。

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

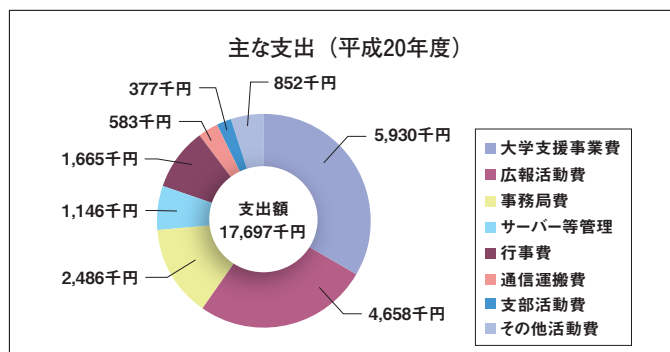
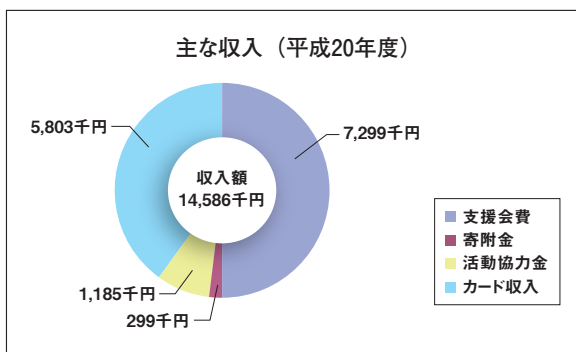
●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee 支援会員 Supporting member : 一口 5,000円
支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○支払い方法 郵便振替 Post Office Account 口座番号：00860-8-113043
自動引落 利用ご希望の方に、預金口座振替依頼書をお送りします。関係書類をご入用の場合は、同窓会事務局にご連絡ください。

支援会費、活動協力金等は、大学支援事業や広報誌作成等全学同窓会の設立理念に合致する活動に使わせていただきました。



●住所等の登録・変更について NUAL member registration

会員の皆様は大学及び全学同窓会からの情報を間違いなくお届けするため、住所等の変更があった場合は、同窓会事務局に電子メールまたはFAXでご連絡下さい。なお、名古屋大学では、名古屋大学のホームページ上で、住所登録・変更の手続きができるよう準備を進めています。準備が整いましたら、名古屋大学全学同窓会ホームページ及び名古屋大学ホームページでご案内いたしますのでご協力をお願いします。

名簿商法にご注意下さい!

名古屋大学、全学同窓会、支部及び部局同窓会とは関係のない組織から、「卒業生名簿」の作成や頒布に関する代金を請求される場合があります。不審な場合は、先方についてよく確認の上、慎重にご対応下さい。

編集後記

本号は昨秋盛大に行われた創立70周年記念式典と年々地元にも定着してきたホームカミングデイを特集しました。「大学ニュース」で紹介した赤崎特別教授の京都賞受賞は、本学関係者の一昨年のノーベル賞受賞に続くビッグニュースでした。次号で同教授からのご寄稿記事掲載を予定しています。「活躍する会員たち」では大先輩と若手のお二人に登場していただきました。楽しんでいただけたことと思います。読者の皆様からのご意見もお待ちしております。(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.13 平成 22 (2010) 年 3 月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会